

作成日	2025 年 6月 17 日
研究科名	児童学専攻

自己評価：S・A・B・C

<p>評価項目① 過年度からの改善・向上の取り組み</p> <p>(ア) 昨年度の自己点検・評価において各組織で記述した課題・改善方策や、内部質保証推進会議からの提言を踏まえ、現時点における取り組み状況・成果について記載してください。</p> <p>(イ) 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な指導・支援・フィードバック等を行い、それによって学生が意欲的に学習できているか。学生への指導や支援、成績評価やフィードバック等の取組状況を具体的に説明してください。また、期待した効果が得られているか、各種アンケート結果等をもとに検証のうえ、記載してください。</p>
<p>参照資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 6 年度自己点検評価シート ・令和 6 年度内部質保証推進会議からの提言 ・第二期中期計画および R7 学長方針 ・大学院生アンケート ・卒業時アンケート（大学院） ・資格取得や進路就職状況 ・各種会議の議事録等 ・その他参照した資料（令和 6 年度児童学専攻 FD 報告書）

【現状分析】

(ア) 志願者・入学者の確保が最大の課題であり、在学生への広報活動を中心に取り組んだが、令和 7 年度の入学者の確保はできなかった。在学生への広報活動としては、まずは各教員がゼミにおいて、入試広報課との連携のなかで制作した動画を活用し大学院および児童学専攻について説明したり、卒論指導とからめ大学院での研究の発展性などの話をした。しかしながら、幼児教育の現場を目指す学生が多く、なかなか大学院進学への目的やメリットが見いだせないようであり、進学希望者はおらず全体説明会の開催までには至らなかった。学外者向けの広報活動としては、教育実習巡回の際に児童学専攻について話題にあげ、園長に説明を行うようにした。園長は大学院に関心を持ってくださるが、働きながらの学修は厳しいようで、夜間の授業の開講、長期履修生制度の周知が必要だと思われる。また、専攻を紹介するリーフレット・チラシなどがあると園長から教員への周知ができるのではないかと考えられた。

(イ) 在籍者がいないため、実施できていない。

【成果】

志願者確保にむけ、在学生に対しての大学院説明会の実施やゼミでの研究指導の充実に取り組んだが、令和 7 年度の入学者確保には至らなかった。

【課題】

令和 6 年度児童学専攻 FD の結果より、在学生が大学院を身近に感じられていないこと、また、幼児教育の現場において幼稚園教諭専修免許状取得がさほど重要性をもたない現状にあることが、在学生の志願者確保の観点から課題となっていると考えられる。

【改善・発展方策】

幼小連携・特別な配慮を必要とする幼児への指導など幼稚園教諭に求められるより高度な専門性を養う教育課程に関する検討に取り組み、在学生に対し大学院進学の意義を伝えていく。そのため、幼児教育の現場関係者よる現場の課題および保育者に求められる専門性についての講演会を開催し、教育課程の検討に活かす。なお、課題改善への施策は、令和 9 年度に予定している発達教育学研究科の改組を念頭に取り組む。